【グループワーク（Bグループ）】

（コーディネーター 前田 氏）

・今回から参加される委員の自己紹介から始めたいと思います。

（委員１）

・坂の上に住んでいる。農業後継者。

・保育所の頃からスキーをやっていて、レストランも利用していた。

・今年は1・2回来ている。新嵐山は、昔から当たり前にある馴染みの場所である。

（委員２）

・錦町西に住んでいる。芽室に住んで5年目になる。芽室町が気に入って移住した。

・新嵐山は移住当初に駐車場に入った程度で、子どもを連れていくのは、幕別町忠類や足寄町

の公園である。

（コーディネーター 前田 氏）

・今回は、皆さんから出された意見を取りまとめた「新嵐山スカイパーク自分ごと化会議に関す

る中間とりまとめ」を見ながら進めていきたいと思う。

・新嵐山スカイパークのあるべき姿というのは、現計画で定めている「この町にしかない地域価

値（景観・食・人）を体感できる農村地帯の宿」である。また、条例の位置づけでは、１つは

観光の振興、もう一つは町民の健全なレクリエーションと健康の増進という二面性を持って

いる。

　ナビゲーターの金清さんの話にもあったが、地域の人にとって大切な場所が観光施設として

　使われることに複雑な気持ちになる方もいらっしゃる。

　皆さんの中にも、人がいっぱい来てほしいけど、来てほしくないという気持ちや赤字である

けど、残していきたいという気持ちなど、色んな気持ちがあると思う。まずは、ナビゲーター

のお話を聞いての感想を述べていただきたい。

（委員３）

・そこに行って楽しむ人だけでなく、町民などみんなを巻き込んで参加できるようなところが

良いと思った。

（委員４）

・世代別にもっと魅力的な場所であったら良いと思った。

（委員５）

・人口700人の村の話が印象に残った。町全体で協力しなければ出来ないことと感じた。

（委員１２）

・「700人の村がひとつのホテルに。」のようなキャッチコピーがあれば、結構なインパクトに

なると思った。

（委員２）

・宿泊施設がキーポイントになったという話であったが、宿泊施設以外で収益を上げることが

できないかと思った。

・まちなかの話であったが、新嵐山は町はずれなので不利な部分があると思った。

（委員１）

・地域住民で一つのプロジェクトを協力しながら成し遂げる。

小さなことから関わって協力できれば良いと思った。

（委員６）

・ターゲットの町民か観光という部分では、余裕がないと試すことができないと感じた。

　試せるかが、キーポイントになる。

（委員７）

・客単価の30,000円に驚いたが、カテゴリーを創出し独占できるコンセプトは、その通りで

あると思った。

（委員８）

・ある分野で１位を取りに行くと話していたが、すごく大事であると思った。

客数や客単価の視点にも共感した。

・プロセスを見て、実際にその町へ行ってみたいと感じたので、プロセスの共有も大切である。

（委員９）

・新嵐山のことをもっと知らなければいけないと感じた。

・どういう価値があるかを理解しながら、周囲に共有することやどう活かしていくかを話して

　いく必要があると感じた。

・私も自分ごと化してきていると思うが、もっと多くの人を巻き込んでいかなければと思った。

（委員１０）

・「新嵐山の魅力の再発見」の部分を深堀りしていくことでコアコンピタンス（核となる真似

できないもの）になると思う。

（委員１１）

・観光というカタチと、地域住民の健康増進という切り口とは違うと思った。

・新嵐山だけで観光は完結できないので、地域全体を見直さないと新嵐山だけではおもてなし

はできない。

・地域の人はスキーをして帰れば良いが、観光は地域内または広域で考えなければならない。

・新嵐山の赤字の話だけで議論すると、行き詰まるだけである。

（コーディネーター 前田 氏）

・前回も皆さんにこうした感覚を意識しながら話してくださいとお伝えしたこと。

「目的・目標」「成果・課題」「ネクストステップ」「方法」と「課題～真因～解決策」を

イメージしながら、「ネクストステップ」を行政に提示できたら、行政は参考にしてくれる。

なぜなら、このネクストステップに行く前に、新嵐山が取り組んでいる成果や課題を委員が

自分ごととして整理しているからである。今日もそういった話をしていきたい。

・今回は、スカイパーク事業の継続性を掘り下げるため、更に具体的な話をしたいと思う。

前回の話し合いで概ね課題は出されおり、ここからはネクストステップに近いものになると

　思うが、宿泊施設に関して客単価や客数、あるいは価値について考えていきたい。

・現行の宿泊料金12,700円（1泊2食）を高いと思うか、安いと思うか。感覚論で良いので。

※委員の意見を確認

・なぜ高いと思うのか確認したい。この金額が某リゾートスキー場の宿泊料金であれば、高い

　とは感じないと思う。何か調子が悪いから高いと感じるのではないか、それは何か。

（委員１２）

・宿泊施設周辺の環境が整備されれば良くなると思う。

（委員１１）

・展望台や登山道が整備されると良い。眺めが良いだけでは宿泊される方も帯広市内の方に

流れると思う。

（コーディネーター 前田 氏）

・物価上昇などにより、以前よりもコストがかかることは理解していると思うが、個人所得が

増えている訳ではないので、町民はこの金額では泊まらないというのが皆さんの意見である。

・宿泊料金を下げて、人を多く集めるのか。または小菅村のように付加価値を上げるのか。

（委員５）

・部屋によって、金額を変えるのが良いのではないか。部屋に対する魅力を高めるために。

（委員６）

・宿泊料金は高くなっているが、部屋は変わっていないと思う。

・自分で宿泊してみてどう思うかを感じてみたいが、高いので試泊できていない。

（コーディネーター 前田 氏）

・委員の中で最近宿泊された方はいらっしゃるか。

※宿泊者ゼロ

・芽室町に住んでいる人が地元のホテルに泊まることは、ほぼ無いと思う。

・昔のイメージやホームページを見ての感想だと思う。

（委員９）

・キレイとか立派なのが良いホテルなのか。

・十勝管内で思い浮かぶのは音更町の某ホテルである。宿泊したことはないが、近代的で立派

だからではなく、人気の理由はおもてなしだと思う。

また、十勝管内の某旅館に泊まったことがある。古い旅館ではあるが、ほっこりとする。

　見た目での勝負は難しいが、おもてなしの部分では工夫できるのではないか。

（コーディネーター 前田 氏）

・お金やサービスの価値というのが、昭和の時代とは変わってきている。「価値・サービス」の

求め方が変わってきているので、その部分を提案してはどうか。

　現在のサービス内容での12,700円は高い。それでは、12,700円を払ってでも泊まりたいと

いうものを付け加えるとしたら、それは何か。何があれば良いか。

（委員１２）

・最近ドッグランに力を入れていると思うが、犬と一緒に泊まれる部屋（ペット専用ルーム）

を作る。

（委員７）

・火を楽しむことのできる部屋。最近の家庭ではＩＨコンロなので火を使うことがない。

（委員４）

・サイクルツーリズムのコースを家族で楽しみながら、完走したらご褒美がもらえるような

企画があれば面白い。

都会であれば、畑の風景の中を自転車で走ることは無いと思うので、そこに行かないと体験

できない価値になると思う。

（委員３）

・地産地消で愛菜屋から仕入れたものを家族で調理して食べるような企画があれば、親子でも

楽しめるのではないか。

（委員６）

・1万円を超える金額であれば、大浴場やスパが欲しい。

（委員１０）

・グランピングであれば高いと感じないので、宿泊施設をグランピング対応にしてはどうか。

グランピングに来られる方の利便性を高めるための大浴場を設置したり、食材を購入できる

ようにするのも良いのではないか。グランピングする際に大きな課題となる雨天時対応と

して避難させる場所（雨天時の部屋利用）としても使えると思う。

（委員７）

・初回にグランピング施設を見学した際に、新嵐山は初心者向けをコンセプトにしているとの

説明を受けた。ターゲットの棲み分けをしているのであれば、その部分を強調してはどうか。

（委員２）

・子どもが楽しめるような噴水や温水プールがあると良い。

（ナビゲーター 金清 氏）

・3回目でかなり話が煮詰まっている感じがする。次のステップとして12,700円の内訳など、

シミュレーションを出してもらっても良いのではないか。

（コーディネーター 前田 氏）

・これまで委員から出された意見では、小さい頃の遠足で新嵐山を初体験し、自動車免許を

取って新嵐山展望台までドライブするなど、みんな新嵐山が大好きという内容であった。

赤字だから施設を閉鎖した方が良いとの意見が出されると思っていたが、そうではなく、

何とかしようという気持ちが強い施設であると感じた。

・今回のグループワークで発言できなかったことは改善提案シートに書いてほしいと思う。

・今日はより具体的な数字を出しながら、宿泊料金が高いかという議論をした。今のままで

あれば全員が高いという感想であった。高くないと感じさせるにはどうしたら良いかの話

も多く出されたので、こうした意見を改善提案シートに書いてほしい。

・行政だけで考えるのではなく、皆さんの意見を届けるという仕組みが必要であり、その点

でも今回の自分ごと化会議で出された意見は、ものすごく貴重だと思っている。

（コーディネーター 前田 氏）

・もう1点、情報発信について少し掘り下げていきたい。

・いま新嵐山で何をやっているのか知らない、町民が愛せないものを外の人が愛せるわけが

ない、キャンプ事業のことも知らないなど行政のやっていることが、みなさんに上手く伝

わっていないという苛立ちやギャップがあると感じた。

　まず、確認したいのは、新嵐山の情報を得る時、どのような手段で情報を得るのか。

（委員１２）

・町の広報誌で知った。

（委員９）

・実際に行ってわかった。

（コーディネーター 前田 氏）

・情報発信が弱い、町民も新嵐山の良さを伝えるべきといった一般論は良く出されるが、知ら

ないものを伝えることは、とても難しいことである。皆さんがどのような手段で情報を得て

いるのかが気になった。

（委員８）

・この会議に参加するようになって、初めて町のＨＰを開いて分かった。自ら取りに行かないと

情報が得られない状況であると思った。

（委員１）

・町の動きは、なかなか分からない。

（コーディネーター 前田 氏）

・みんな新嵐山が好きである。潰したくないということも分かった。潰したくないのであれば

新嵐山をもっと知ってもらう必要がある。

今回参加している委員だけではなく、他の人も含め、町民が新嵐山のことを知るためには

何が必要か。

（委員６）

・以前は、町広報誌に広告が載っていた。

（委員１２）

・コロナ禍で掲載されなくなったが、宴会プランの広告もあった。

・犬連れの人にシフトしながら、泊まる設備を整えるのが良いと思う。

（委員４）

・犬を飼っているので、ドッグランに行くので雰囲気は理解している。

大型犬と泊まれる宿を探すのが大変である。グランピングに特化するのであれば、それら

のニーズを取り込めると思うし、犬を飼っている方のネットワークは結構あるので、その

ネットワークを利用するのも良いではないか。

・帯広市内にドッグランはない。

（委員１０）

・SNSで口コミは広がっている。口コミは大きなファンになる確率が高い。信頼できる人から

紹介されて、自分で体験して良かったから、自分も紹介しよういう、そのリピート率の高さ

と相関性が高いので口コミに繋がる仕掛けを作ることは情報発信として非常に強いと思う。

（コーディネーター 前田 氏）

・昔は町内会などの宴会利用があって、施設の変化などを見る機会も多かったと思うが、時代

　背景（コロナなど）によりその状況も少なくなった。これまでは宴会等で利用していたので

昔の方が良かったというのは当然である。

・今回のように皆さん集まると多くの意見を述べてくれる。このような意見など、皆さんの思い

が上手く伝わっていないのかもしれない。

・新嵐山の意見やアイデアを出す機会など、町民への情報提供の場が少なかったのではないか。

（委員３）

・そういう場があれば、もっと意見は出ると思う。

・閑散期にクーポンなどの町民還元があっても良いと思う。

・高齢者は移動手段が問題であり、週に1回程度でもバス送迎があれば、ゆっくり食事利用など

　できると思う。

（委員６）

・レストランの営業時間が変更となり、お風呂に行っても食事利用ができなくなった。

コストの見直しによるものと理解はするが…。

（コーディネーター 前田 氏）

・黒字経営を求められているのは当然のことであるが、経営収支だけではなく、新嵐山という

文化を守ることに関し、多少の税金を投入しても良いという気構えがあるとみなさんの意見

から感じた。

　どこまでの赤字を許容するかという意見もあるが、町民にとっても使いやすいという部分は

　提案していきたい。

以上

